



「職員集団からはじまる人権保育」

一般社団法人コアプラス 代表理事 武田 緑さん



人権保育専門講座7は、一般社団法人コアプラスの武田 緑さんに「職員集団からはじまる人権保育」と題してご講演いただきました。桑名、津、伊賀の3会場で、約80名の方にご参加いただきました。

「人権保育とは？」という問いに対して具体的に定義づけていくなどのグループ活動を通して、それぞれが所属する職員集団や職員研修のあり方を考えるきっかけとなりました。

また、後半には、部落問題について、差別を許している社会に適応してしまっている個人の意識

を見つめ直していくことで、その解決に向けた展望を見出すことができるというお話をしていただきました。

まずは、4つの窓 de 自己紹介

率直な意見の交流をしていくために、まずは、自己紹介でグループの形成（フォーミング【※1】）をしました。

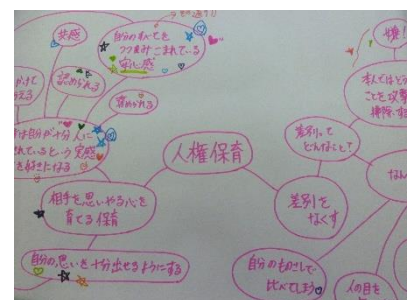
4つの窓のひとつに、「人権保育について思い浮かぶもの」があり、このあと考えていくテーマについて、自分の考えを整理するねらいもありました。



次に、マインドマップづくりを通して考える「人権保育ってなに？」



自己紹介のあと、「人権保育」から枝葉を伸ばしていくようにして思いつくことをどんどん出し合いました。



さまざまな意見を集約して「人権保育」の定義を立てる



多岐にわたるそれぞれの意見を話し合いによってまとめ「人権保育」の定義を考える活動をしました。

その観点は、①だれが ②だれに対して ③どこで ④いつ
そして、特に重視し、議論したことは、

⑤何のために(目的・理由)

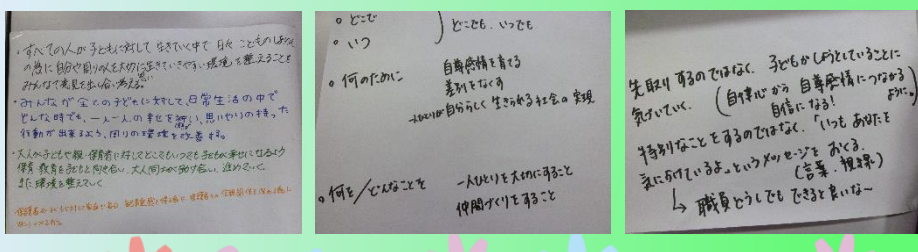
⑥何を・どんなことを(内容)

⑦どのように(具体的な方法)

です。

大変難しい課題でしたが、参加者の方々が日常の保育の中で、「それぞれにとらえていること」をあらためて考え合い、「定義」として明文化することで、グループで整理していくことができました。

(ストーミング【※2】の体験活動として)



★武田さんに紹介していただいたチームの発達段階【タックマン・モデル】では、

チームは、

①フォーミング（形成期）に始まり 【※1】

コミュニケーション量を増やし、率直に関わり合うことで

②ストーミング（混乱期）に入り 【※2】

ゴールを共有することで

③ノーミング（規範期）を迎え

達成に向けて意志統一をすることで

④パフォーミング（機能期）になると説明しています。

※「タックマン・モデル」とは、チームビルディング(組織進化)モデルの5段階をさすそうです。心理学者のタックマンが唱えたモデルです。

武田さんの考える「人権保育・教育」の必要性（目的）は・・・



- 社会的マイノリティの立場にある子が自分を卑下したり周囲を不信に思わなくてもいいように。
- 一人ひとりの（社会的背景を含む）多様性を当たり前前に認め、生かし合えるようになるために。
- 社会と自分のつながりを自覚し、希望を持って社会に参画できる人が増えるように。

部落問題の解決にむけて

後半は、部落問題の解決に向けた展望をお話いただきました。

現代の部落差別の問題には、かかわると不利益があるというところからくる「忌避意識」が根深くあります。

「忌避意識」は、差別を温存している今の社会（「社会環境」）と、そこに生きる人の意識（「個人の意識」）が相互に影響し合って、生み出されているものです。

部落問題の解決に向けて、差別を温存している**社会の中に生きる自分としての責任**という点で、「**差別をなくすためにできることがある**」という**希望がある**のだ、と一人ひとりが自覚していくことが必要です。



そして、（消極的にであっても）差別を容認している自分の意識の是非を考え、「よくない！」と思ったときに立ち止まり、前半の集団づくり（タックマン・モデル）の道筋に当てはめて、**自分の周りに差別をなくしたいと思う仲間のつながり（「社会環境」）を広げていく**ことで実現していけるという展望をもつことができました。

※ 日本の場合、多くの集団が形成期で留まり、ストーミング（混乱期）【※2】が起きにくいそうです。ストーミングを起こさないことが、「よいこと」だとする意識があるのかも知れません。

こうした意識が、差別を温存している社会環境の根底にあるのではないかと、一人ひとりが考えていく必要があるのではないのでしょうか。

【参加していただいた方のアンケートより】

- 日々の保育で考えさせられることが多々ある中で、「やっぱり」と思うこともありました。今の子どもたちとのコミュニケーション、親とのコミュニケーション、今回での研修で生かしていけると良いなと思いました。
- もやっとしていたテーマでしたが、少しは自分の中で形になりそうな感じがしました。グループの方との話し合いも、ワークで参加して楽しくて良かったです。
- グループで話し合うことができ、たくさんの意見や思いを聞くことができ、良かったです。日々考えることがないことを、じっくり考える機会になりました。とても興味の持てる内容でした。
- 普段からこんなに「人権保育」について具体的に考えることがなかったので、「人権保育」の奥深さを感じました。保育をする中で、もっと目的・目標などを持って、子どもたちと接すると、今まで見えなかったものや感じられなかったことが分かるようになるのでは、と思います。一人でも多く子どもたちと信頼関係を築き、一人ひとりが尊重されるようになればと思います。
- グループワークで理解しやすかったです。部落差別の話の時は、リアリティを感じ、なくす難しさを感じました。「部落差別なんて誰がするんだろう」という言葉がとても心に残りました。誰かがするから、と流されていることの多さ、それを疑問に思っても、流されたままにいる自分にも気づくことができました。すごく考えさせられる研修でした。
- 人権問題という難しいイメージがありましたが、少し身近に感じることができました。同じグループ内で、日々のことを話したりできて、同じような思いを持っていて安心できました。
- 人権保育について改めて考える機会になりました。日々の保育の中で行っている全ての言動が、人権保育につながっていると考えていますが、“人権保育とは…”と言葉や文字にしていくことで、自分の中で整理できたように思います。
- グループワークだったことで、自分の思いを言葉で伝えることは難しいこともあったけれど、グループだったからこそ、思いが言葉につながったと思います。これも職場の雰囲気にもつながり、これからは生かしていきたいと思っています。



- 人権保育とは、という奥の深いテーマについて考える機会は大切なことです。毎日の忙しい中ではなかなかその時間を作れなかったりすることも多いです。文字にして考えたり、掘り下げたり、意見交換のできる良い機会になりました。難しいけれど、振り返ったり、考えたりする機会の大切さを感じました。また、自分が変われば環境が変わるという言葉に胸に、これからも頑張りたいです。
- 「人権保育」というテーマに対して、それぞれの思っていることや、実践などを出し合っていくという作業の中で、また人権保育に対する自分の視点が広がった気がします。部落差別について、忌避意識は本当に大きな課題であると思います。自分の中にもある…一人ひとりがそれを自覚して、逆流させていきたいです。
- グループでの活動を交えての講演会だったので、グループ内の方とコミュニケーションを持ちながら、「人権保育」について考えることができ、よかったです。また、他のグループの意見も見せていただくことができ、幅広い考え方を学ぶことができました。
- 自分自身の価値観を見つめ直す機会になりました。自分を好き→自己肯定感を持てるように、日々保育の中で思っていますが、“社会を変えること”も忘れずにいたいと思いました。まずは保育園もですが、自分の家族や友だちの中でできることを探していきたいと思いました。
- 体験型だったので、すごく分かりやすく、学びとなりました。“人権保育” 普段何気なく使っているこの言葉。しかし、いざ考えてみると、よく分かっていないことに気がつきました。子どもたちの出ていく社会を変えていくことも、子どもたちの幸せを願うことの1つだということを知りました。ありがとうございました。
- 自分の悩みは、自分だけのものでない…と、グループでの話の中で分かり合うことができ、ホッとしたり、前を向いたりする時間となり、有意義な時間となりました。社会に出た時、つまづかないために、子どもを育てること…長年の経験から実感しています。それぞれの人の力を合わせて、共通の方向に向かっていけるよう、明日からも頑張ります。

